

## 5 研究主題と指導法の工夫

基本となる教育課程に視点をあて、昨年度の実践を検討し、授業の中で効果のあった指導法を列挙し、今年度の指導法工夫の資料とした。未整理のままであるが、現段階のものをまとめて別添資料に挙げておいた。

## 6 研究主題と養護・訓練からのアプローチ

中学部では、生徒ひとりひとりの発達と障害をつかむため、当面養・訓グループが中心となってフロスティック視知覚発達検査、パーデュ-知覚運動検査など諸検査を実施した。表1に示す

表1

生徒名	下位検査 CA	I 視覚と運動の協応	II 図形と地素	III 形の恒常性	IV 空間における位置	V 空間関係
A.T	14:2	9:04	3:06	(3:06)	6:06	7:04
K.T	13:8	4:03	4:00	(4:00)	5:08	5:09
Y.W	13:4	5:10	3:09	3:09	(3:03)	3:08
A.K	13:0	5:06	4:11	4:11	(4:00)	4:10
Y.I	13:4	4:00	5:03	5:03	(2:08)	5:09
Y.T	14:6	9:04	8:06	(6:07)	8:00	5:09
T.Y	15:4	4:09	3:06	3:03	(2:08)	3:08
Y.A	14:1	6:06	6:10	(4:06)	6:06	5:09
H.T	15:8	9:04	8:06	(6:01)	8:00	8:00
S.T	15:8	9:04	8:02	8:05	(6:06)	7:04
K.M	15:8	9:04	5:11	(5:03)	8:00	6:06

のは、このうち、フロスティック視知覚発達検査の結果であるが、この表からもわかるように、全般的にみて、「形の恒常性」「空間における位置」のどちらかに大きく落ち込みがあることがわかった。

そこで、この落ち込みに注目し、ここを中心にプログラムを組んで訓練することで、子ども

の認知能力を刺激し、学習効果をあげることができるという仮説のもとに取り組むことにした。

養・訓での指導は、フロスティックの視知覚学習ブックを基本にし、これに身体運動、ゲーム遊び、指遊び、模倣遊びなどを加えて編成している。次に示す表2はその実践例である。

表2 Bグループ(空間における位置)の実践例

取り組みの方法		子どもの反応・考察				
授業の流れ	内容	A・K	K・T	Y・I	T・Y	Y・W
1 指遊び	1 音楽に合わせて指を使った遊びをする。一本ずつ指を示したり、ジャンケンなどの動作などを歌詞に合わせて示す。	薬指(特に左)が出にくい。	どうにか一人で示せる。	薬指を出すのが難。一本一本曲げていかなければ、示せない。	一本一本曲げていかなければ、示せない。	
2 左右の弁別	2 身体部位を使って左右の弁別をする。  ・正しい方向を示し、模倣をくり返す。	ほとんどわかっているが、方向をかえたりすると、わからなくなる。	はじめのころは人のまねをして、回を重ねるに従い、わかってくる。	人のまねが多く、自分で示すときにはまちがっていることが多い。しかし、回を重ねるに従い、わかってくる。	気分によって参加したりしなかったりである。正答率も上がる。	
3 トレーニングペーパー	3(1) 逆さのものを探す。 ・男の子(3人中1人逆) ・サル(3匹中1匹逆) ・キリン(4匹中1匹逆) ・カップ(5つ中3つ逆) *実際のカップを使って考えさせ	◎	◎	◎	◎	◎
				4つ以上のものの比較はできにくい、3回目からできた。	1つだけに印。	やる気がないと質問に答えない。